〔科目名〕 美と価値	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 教養科目
〔担当者〕 泉 滋三郎 Izumi Shigesaburo	〔オフィス・アワー〕 時間 ：講義の前（昼休み）と講義後 場所 ：講義室あるいは講師控え室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 <p>本科目では、美の範囲を美術作品だけではなく広く解釈し、美的なモノやコトにも注目していきます。縄文土器、民間伝承、工芸、現代のアニメなども視野に入れ、そこから美を希求してきた人間の文化を考察し、さらに現代社会における芸術と文化のあり方を考えていきます。まず現代美術とデザインを概観します。次に日本の美や郷土の文化に注目し、様々な視点から美とその価値について理解を深めます。キーワードは美術史、現代美術、デザイン、色彩、境界、アニメ、自然哲学、花鳥、樹木、水、鬼、鉄、東アジア、縄文などです。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか〕 <p>美の領域は他の分野から独立して存在しているわけではありません。美術作品は文学や信仰に深く関わりを持つものでした。また美の考察には歴史学、考古学、民俗学や人類学の知見が助けになります。さらに作品の分析には自然科学の知識が必要です。今日、美術の知識が企業の経営に必要だとする考え方が広がっています。また地方美術館の運営や地域の美術イベント、例えば「大地の芸術祭 越後妻有トリエンナーレ」「瀬戸内国際芸術祭」などでは、行政の側にも美術に対するスキルが求められています。</p> <p>このように多様な学問領域に関わりを持つ美についての学びは、ただ単に知らない世界を見るとか、レポートの提出とかを超えて、真の教養とは何かを知るよい機会となるでしょう。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <ol style="list-style-type: none"> 1. 美術領域のモノ・コトに興味を持つことができる。 2. 美術作品の鑑賞法を理解できる。 3. 美術作品を歴史や民俗学など他の領域の視点で理解できる。 4. 土器からアニメまで美術領域のモノ・コトをキーワードから調べることができる。 5. レポートやリアクションペーパーを書くことによって、美術領域のモノ・コトを言語表現できる。 		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>講義内容に誤解がないように自らの発話に留意します。講義反応への解説は主観的にならないようにします。</p>		
〔教科書〕 <p>なし。毎回の授業時に資料を配布します。</p>		
〔指定図書〕 <p>特になし</p>		
〔参考書〕 <p>山田五郎『知識ゼロからの西洋絵画史入門』幻冬舎 2011 高階秀爾『名画を見る眼』岩波新書、1969 塚原史『ダダ・シュルレアリスムの時代』ちくま学芸文庫、2003 巖谷國士『シュルレアリスムとは何か』ちくま学芸文庫、2002 金子隆芳『色彩の科学』岩波新書、1988 布施秀利『色彩がわかれば絵画がわかる』光文社新書、2013</p>		

内田樹『寝ながら学べる構造主義』文春文庫、2002
 谷川健一『常世論』講談社学術文庫、1989
 赤坂憲雄『境界の発生』講談社学術文庫、2002
 山口昌男『文化の両義性』岩波現代文庫、2000
 宮崎駿『出発点 1979～1996』徳間書店、1996
 新海誠『君の名は。』角川文庫、2016
 吉野裕子『十二支 新版: 易・五行と日本の民俗』人文書院、2021
 白川静『漢字百話』中公新書、1978
 J・G・フレイザー (James George Frazer) 『金枝篇』ちくま学芸文庫、2003
 竹村真一『宇宙樹』慶應義塾大学出版会、2004
 正道寺康子編『ユーラシアのなかの宇宙樹・生命の樹の文化史』勉誠出版、2018
 谷川健一編『日本民俗文化大系 2 太陽と月』小学館、1994
 馬場あき子『鬼の研究』ちくま文庫、1988
 小松和彦『鬼と日本人』角川ソフィア文庫、2018
 荻原秀三郎『鬼の復権』吉川弘文館、2004
 齋藤成也『核 DNA 解析でたどる日本人の源流』河出書房新社、2017
 野村伸一『東シナ海文化圏』講談社、2012
 服部英二『転生する文明』藤原書店、2019
 小林達雄『縄文の思考』ちくま新書、2008
 ネリー・ナウマン (Nelly Naumann) 『生の緒』言叢社、2005

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

期末のレポート1回と講義中のリアクションペーパーで評価します。レポートは講義で扱ったテーマから学生自身が興味を持つ課題を一つ選び、独自の視点から調べて報告してもらいます。リアクションペーパーは、講義でわからなかったこと、また美の領域に関わる感想・意見・質問を記述してください。

〔評価の基準及びスケール〕

レポートは視点の独自性、調査の深さ、用語の適切さから評価します。リアクションペーパーは、記述の回数、用語の適切さから評価します。
 レポート、リアクションペーパーをそれぞれ100点満点で数値化し、レポート70%、リアクションペーパー30%の比重で評価し、その後、大学の決めた基準に照らしてABCDFを決定します。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

学ぶということは、知識を増やすのではなく、知らないが増えることです。私たちは無知であると知ることです。さまざまなことがらには意外な繋がりがあるものです。安易な先入観にとらわれることなく、柔軟な姿勢で授業に取り組んでくれることを期待します。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): 美術とは何か、現代美術の萌芽 内容: 美術とは何かを考え、第一次世界大戦以後の抽象芸術、ダダイズム・シュールレアリスムの美術作品を概観し、現代美術へ至るまでを理解します。 教科書・指定図書 なし。資料を配布。
第2回	テーマ(何を学ぶか): 現代美術 内容: 既に歴史となった第二次世界大戦以後の現代美術を、抽象表現主義、ポップアート、ミニマルアートなどから理解します。 教科書・指定図書 なし。資料を配布。

第3回	<p>テーマ (何を学ぶか) : デザイン1</p> <p>内 容 : デザイン領域の種類を理解します。十九世紀末からのデザイン運動、アーツ・アンド・クラフト、アール・ヌーヴォー、アール・デコについて理解します。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配布。</p>
第4回	<p>テーマ (何を学ぶか) : デザイン2</p> <p>内 容 : モダンデザインの源流であるデ・スタイルの芸術運動から見ていきます。バウハウス、ル・コルビュジェなどのモダンデザインを理解し、さらにポストモダン、現代デザインを理解します。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配布。</p>
第5回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 色彩の基礎</p> <p>内 容 : 色彩は様々な表現に欠かせません。色彩についての基礎的な知識、その効果、色彩の表記法について理解します。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配布。</p>
第6回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 日本の美—境界の表現から—</p> <p>内 容 : 表現するとは境界を示すことでもあります。内と外、この世とあの世、生と死、野蛮と文明などには、互いを隔てる境界があります。さまざまな境界の表現から美について見ていきます。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配布。</p>
第7回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 日本の美—アニメの中の表現—</p> <p>内 容 : 宮崎駿「となりのトトロ」「もののけ姫」、新海誠「君の名。」、庵野秀明「シン・エヴァンゲリオン」などの場面や造形から境界の表現を検証し、制作意図について考察をすすめます。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配布。</p>
第8回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 日本の美—自然哲学と方位について—</p> <p>内 容 : 自然哲学、易、陰陽五行説の考え方は、干支や昔話の背景となり、絵画や工芸表現に見られます。私たちの日常にも影響を与えている自然哲学や、昔の人々の方位への観念を考察します。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配布。</p>
第9回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 日本の美—花鳥の表現から—</p> <p>内 容 : 花鳥の表現は、日本の美の代表です。正倉院の工芸品や布、平安時代から江戸時代までの花鳥図には変遷が見られます。花鳥の表現に託された人々の理想への観念を理解します。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配布。</p>
第10回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 日本の美—樹木—</p> <p>内 容 : 青森県には白神の森、西海岸の歴史的な樹木など神々しい樹があります。樹木は古くから信仰の対象でした。世界の樹木信仰を知り、樹木を美の表現から理解します。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配布。</p>
第11回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 日本の美—山水画と庭園—</p> <p>内 容 : 日本庭園には流水、あるいは枯山水があり、山水画には水の表現があります。中国には道教思想による中国庭園、インドには水をテーマとした庭園があります。水と美について理解します。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配布。</p>
第12回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 日本の美—鬼と神について—</p> <p>内 容 : 「ねぶた」には鬼が登場します。しかし青森県の鬼は邪鬼ではないようです。鬼は神でもあったのです。日本の鬼の観念、そして祭礼や美術における鬼の美的表現について理解します。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配布。</p>
第13回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 日本の美—製鉄・刀—</p> <p>内 容 : 出雲の製鉄は有名です。岩手や青森でも古くから製鉄が行われました。日本刀の源流は北方とされます。岩手では舞草鍛冶などの刀鍛冶が知られます。東北の鉄と刀剣の歴史を理解します。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配布。</p>
第14回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 日本の美—東アジアとの関係—</p> <p>内 容 : 日本の文化はユーラシア大陸の北と南から影響を受けました。言語、水墨画、黄檗美術、青磁、陶磁器、蝦夷錦など近世に至るまでのアジア大陸からの影響を理解します。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配布。</p>
第15回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 日本の美—縄文土器の表現—</p> <p>内 容 : 縄文土器の造形は新たな知見を含めて様々な解釈があります。ここでは新石器時代の中国、中近東などの美的表現に見られる蛇と月のレトリックとメタファーから考察し、理解を深めます。</p> <p>教科書・指定図書 なし。資料を配布。</p>
試験	